

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **65** 2018
August

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.8

ミシガン大学医学部最高責任者 (CEO)
一行が本学を訪問されました



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージvol.8	3
	ミシガン大学医学部最高責任者 (CEO) 一行が本学を訪問されました	4
	MBT 研究所だより	6
	図書館だより	7
	未来への飛躍基金だより	8
Campus News	新入生オリエンテーションを行いました	9
	医療安全管理研修を行いました	9
	はっと!! KOBE 健康フェアにMBT 研究所が出展しました	9
	奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	10
	「ゆうドキッ!」に理事長・学長が出演しました	10
	「着物でジャズ、今井町」にMBT 研究所が出展しました	10
	公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会を開催しました	11
	モンゴルから臨床研修の視察に来られました	11
	平成30年度 新生児蘇生法 (NCPR) 講習会を開催しました	11
	チェンマイ大学病院看護師との文化交流	12
	大学院看護学研究科のオープンキャンパス2018 を開催しました	12
	輸血関連認定看護師について	12
Winner Report	第55回日本癌治療学会で最優秀演題賞を受賞しました	13
	第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会以若手研究奨励賞を受賞しました	13
	第16回日本病院総合診療医学会学術総会で最優秀会長賞を受賞しました	13
	第18回AKUA 学術集会以研究助成金を頂きました	13
	第33回ヨーロッパ泌尿器科学会総会でベストポスター賞を受賞しました	14
	日本学術振興会 海外特別研究員に採用されました	14
	第118回日本外科学会定期学術集会以プレナリーセッションに選出、優秀演題賞を受賞しました	14
	第115回日本内科学会総会で優秀演題賞・指導教官賞を受賞しました	14
	2017年度国際ソロプチミスト女子大学生奨学金給付の受給者に決定しました	15
	看護功労者知事表彰を受賞しました	15
	第36回Cytoprotection 研究会で奨励賞を受賞しました	15
	第61回日本糖尿病学会年次学術集会以YIA: Young Investigator Awardを受賞しました	15
	第100回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会で奨励賞を受賞しました	15
	第47回日本IVR学会総会以Certificate of Excellence Featured Abstractを受賞しました	16
	平成30年度 (第1回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定 (国際交流センター)	16
	第42回日本頭頸部癌学会で平成29年優秀論文賞を受賞しました	16
	平成30年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました	16
	平成30年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	17
	リサーチ・クラークシップ体験記	22
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	22
Information	大学院入試日程	23
	公開講座情報	23
	メディア掲載情報/編集後記	24

理事長・学長からのメッセージ vol.8

学生諸君、そして医師・看護師の皆さんへ

『医学教育日本一を目指す奈良医大』を拠点に、世界に羽ばたこう！

1. 教育改革 2015

将来像策定会議の議論を経て、2015年3月に「奈良県立医科大学教育改革 2015」を策定し、実行に移しています。主要項目は、医学科・看護学科の一般教育の統合、臨床英語教育の推進、良き医療人育成プログラムの新設、医学科臨床実習の72週化、保護者との対話拡大、等です。本学医学科の偏差値(河合塾)は、2018年度の入学試験においても後期72.5(前期は70.0)で、東大理Ⅲ、京大医と並んで全国最高でした。入学してきた優秀な学生に、最高レベルの教育を施し、最高レベルの良き医療人・医学者を世に輩出することが、本学の使命だと思っています。



臨床英語の授業風景

看護学科においては、大学院看護学研究科に、2017年度に論文コースの専門科目として在宅看護学を追加し、さらに2018年度には高度実践コース「高度実践看護師教育課程」及

び「周麻酔期看護師教育課程」を設置するなど、時代に即した新しい教育課程を積極的に組み入れています。看護教育においても、本学は、常に一步上のレベルを目指しており、近い将来必ずや大きな成果が出るものと期待しております。

近年取り入れました、『在学時の学外(海外・国内)実習の推進』は、学外からも高い評価を受けています。これを可能にしているのは、多くの方々からの支援で成り立っている「未来への飛躍基金」です。一人でも多くの学生が、本学在学中に、海外研修を経験できるように、さらなるご協力をお願いいたします。

2. ハワイ大学との教育連携

医学科6年生に対して、図に示すような呼びかけをしています。海外の大学の医学教育に接することは、医療人としての経歴に、必ずプラスになると思っています。ここで一つ大切なことは、母校に片足を置いておくことではないかと思えます。完全に縁が切れてしまうと、たとえ実力をつけたとしても、それを生かす場が確保できない心配があるからです。近い将来、医療界も極めて競争が厳しくなっていきます。

3. ミシガン大学との連携模索

後の記事で紹介するように、本年5月にミシガン大学医学部最高責任者(CEO)一行が本学を訪問され、両大学の協力について話し合いを行いました。ミシガン大学と連携ができれば、本学にとって、教育、研究だけでなく、臨床においても大きなメリットがあると期待しております。近々、ミシガン大学を訪問し、連携について、さらに進んだ話し合いを持ちたいと思っています。

6年生のみなさん

奈良医大を拠点として世界に羽ばたこう！

ハワイ大学と奈良医大の連携が進んでいます

- ▶海外で研修することは競争力のある医師になるための大きなファクターです。
- ▶一方、その準備と実践には膨大な時間とかなりの費用(数百万円)がかかります。
- ▶ずっと海外で医師を続ける場合は別として、日本の「帰ってこれる場所」は大切です。
- ▶奈良医大は卒業生の海外研修をサポートし、みなさんが「帰れる場所」になりたいと考えています。
- ▶奈良医大はハワイ大学などとの連携を通じて研修医(前期・後期)の海外研修をサポートします。
- ▶奈良医大は、USMLEを受験して米国研修を目指すみなさんもサポートします。
- ▶ハワイ大学が開催する Medical English Course を受けてみませんか？

University of Hawaii Medical English Course

「自分の英語力で大丈夫かな?」、「米国の臨床についていけるかな?」
と思っているみなさんに最適のプログラムです。



ミシガン大学医学部最高責任者（CEO）一行が本学を訪問されました

平成 30 年 5 月 22 日、ミシガン大学医学部から最高責任者（CEO）一行 4 名が本学を訪問されました。今回の来学は、伊藤教授（免疫学）の留学先の恩師である Kunkel 先生、河村准教授（玉井進記念四肢外傷センター）の留学先の恩師である Chung 先生との長年の交流により実現したものです。

ミシガン大学は、世界的なランキングである“Times Higher Education 2018 大学ランキング”で、21 位を獲得する著名な大学です（参考：東京大学 46 位、京都大学 74 位）。また、診療面でも高い評価を受けており、定評のある“America’s Best Hospitals (2017-2018)”においても 6 位に位置づけられています。



(後列左より) 伊藤教授、福益課長、笠原(敬)准教授、赤井教授、河村准教授、Bolstad 教授
(前列左より) Barritt 氏、車谷副学長、細井理事長・学長、Runge 医学部長、Kunkel 先生、Chung 先生

■ University of Michigan Medical School 来学メンバー

- 1) Marschall S. Runge, M.D., Ph.D. (Dean, U-M Medical School, Executive Vice President, Medical Affairs CEO, Michigan Medicine)
- 2) Steven L. Kunkel, Ph.D. (Senior Associate Dean for Research, Endowed Professor in Pathology Research)
- 3) Kevin Chi Chung, M.D., M.S. (Assistant Dean for Instructional Faculty, Professor, Department of Surgery)
- 4) Eric Barritt (Associate Vice President and Chief Development Officer)

今井町散策・今井町ゲストハウス見学



今井町ゲストハウス前にて



今井町ゲストハウス室内の見学の様子

伊藤教授、河村准教授、遊佐講師（MBT 研究所）の案内で、今井町を散策され、今井町ゲストハウスを見学されました。

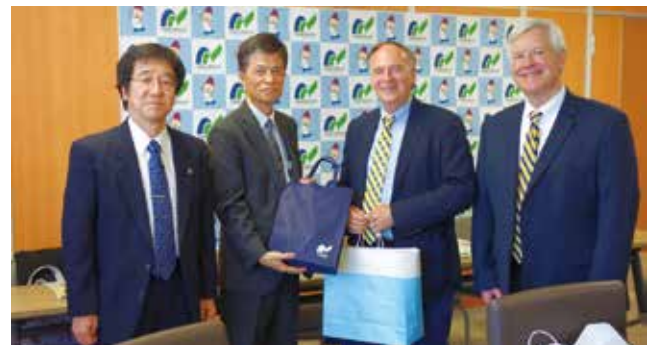
学長表敬訪問・懇談会

学長表敬訪問に続く懇談会では、ミシガン大学医学部との交流拡大に向けて、伊藤教授が本学紹介のプレゼンテーションを行い、活発な意見交換が行われました。

現在実施しているリサーチクラークシップ海外派遣に加えて、新たに学生交流や研究者交流を前向きに進めていくことが話し合われました。



細井理事長・学長のあいさつ



記念品の交換

ミシガン大学医学部最高責任者による特別講演 (Dr. N Step up Program 共催)

厳樞会館大ホールで行われた特別講演では、“The Future of Precision Health: The Michigan Medicine Initiative” と題して、Marschall S. Runge 医学部長が講演されました。

“Precision Health” とは、2015年にオバマ大統領が提唱した“Precision Medicine (個人に合わせた医療)”を発展させ、疾病を予防し、長く健康と生活の質を維持することを目標とした考え方です。

特別講演には多くの研修医、指導医、医学科学生等が参加し、盛況のうちに終了しました。



講演を行う Runge 医学部長

Marschall S. Runge 医学部長経歴

- ・ジョンスホプキンス医科大学 内科レジデント
- ・マサチューセッツ総合病院 心臓病フェロー
- ・ノースカロライナ大学医学部長を務めた後、現職であるミシガン大学医学部長に就任
- ・「ネッター心臓病アトラス」を編集するなど、心臓病の第一人者として高名



満員の厳樞会館大ホール

免疫学 特別講演会

基礎医学棟 1 階・第一講義室で行われた免疫学特別講演会では、“Bugs, Inflammation, and Epigenetics: How Pathogens Control our Immune Response” と題して、Steven L. Kunkel 先生がエピジェネティクスを中心とした最新の免疫研究を講演されました。

Kunkel 先生は、サイトカイン及びケモカインによる炎症性疾患の分子メカニズムを中心に研究を進めてこれ、その研究

業績は国際的に高く評価されており、これまで 600 報以上の論文を発表されています。またミシガン大学 (上級) 副学部長として、ミシガン大学での研究の発展に大きく貢献してこられました。

特別講演には多くの学生、大学院生、教職員が参加し、活発な質疑応答が行われました。



講演を行う Kunkel 先生



熱心に聞き入る学生たち

1. 三井住友銀行との連携による技術シーズ説明会

三井住友銀行は、有力大学等と連携して事業化を希望する研究シーズを銀行の顧客企業に紹介するビジネスマッチングを行っております。その一環で、今回MBTと連携して、本学シーズを東京の本店で顧客企業に奈良医大研究者から紹介することとなりました。本学シーズ集を三井住友銀行の行員が可能性の高い顧客企業にPRし企業を集めていただけます。具体的には、以下のような流れとなっております。

- ①三井住友銀行の専門チームと共同で、企業とのマッチングの可能性が高いテーマを3～5件選定し、三井住友銀行の行員が顧客に説明できるよう表現をブラッシュアップした研究シーズ集を作成する。
- ②三井住友銀行の行員が研究シーズにマッチしそうな顧客企業に、個別に感触を確かめる。
- ③三井住友銀行の東京の本店に、②で関心を持ってくれた企業を集め、技術シーズ説明会(平成30年11月27日(火)開催予定)を行い、詳細を説明するとともに個別面談の場を設ける。

三井住友銀行の顧客企業は数万社に及びます。この営業網を活用してこれまで研究者や大学等が把握できていなかった企業との連携を図ることができると考えております。

2. 「妊娠期・子育て支援サービス」販売開始

富士通は、「FUJITSU IoT Solution 子育て支援ソリューション 妊娠期・子育て支援サービス」を平成30年5月11日より販売開始しました。本サービスは、MBTコンソーシアムの活動の一環として、富士通と本学が平成29年10月から約4カ月間実施した共同実証を経て商品化したものです。

本サービスは、看護師や助産師、保健師などが24時間常駐するコールセンターにおいて、自治体や医療機関の専門窓口業務を代行するサービスです。各々の分野の専門資格を持った相談員が、電話やメール、チャットでの問い合わせに対応することで、妊娠期における母親やその家族が抱える健康相談や心配事など子育てに関わる様々な不安の軽減を支援します。

また、コールセンターに蓄積された相談内容や対応状況のデータをクラウド経由で各機関の業務システムと連携させる「情報共有サービス」の活用により、多数の機関が一体となった妊娠期における母親やその家族への包括的なケアを支援するものです。(※図)

3. MBTの広報

(1) はっと!! KOBE健康フェアに出展

平成30年4月7日に神戸市主催、WHO神戸センター、JICA関西等々の共催により、HAT神戸にあるWHO神戸センターとJICA関西の2会場で「はっと!! KOBE健康フェア」が開催されました。WHO神戸センター新研究発表会では城戸顕病院教授が「高齢者のリハビリ効果の測定」の題目で講演され、また、併設された展示ブースではMBT研究所の紹介を行いました。



講演する城戸先生

(2) NHK奈良放送局での紹介

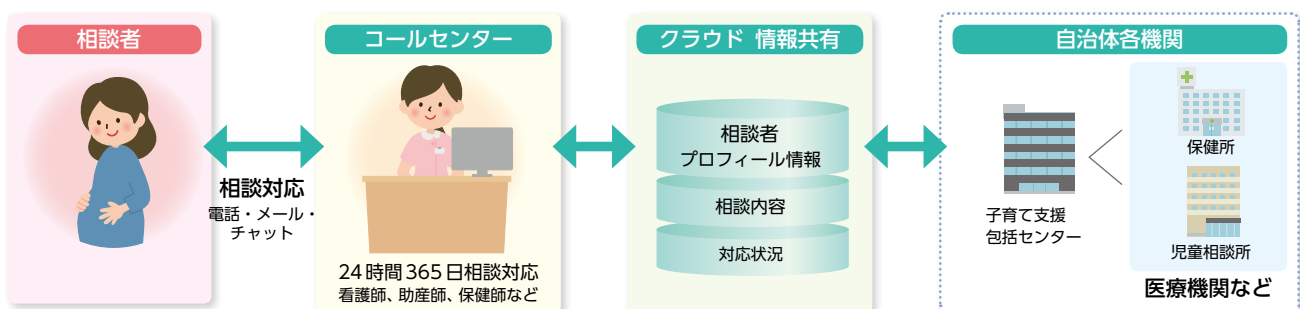
平成30年5月18日にNHK奈良放送局で放映された「ならナビ」でMBTの取り組みの一つである「IoTで高齢者見守り」が紹介されました。

(3) 中国老人医療福祉全国大会招待講演

平成30年6月18日、中国老人医療福祉全国大会において、遊佐敏彦講師がMBTについて招待講演を行いました。



講演する遊佐先生



※図：「妊娠期・子育て支援サービス」の概要図

検索マスターへの道 (第11回) CINAHL を使ってみよう！

CINAHL (シナール) をご存知ですか？看護学関連の文献データベースで1981年からのデータが提供されており、PubMedの看護バージョンのようなイメージです。本学ではCINAHL with Full Textを契約しており、掲載誌3,100誌のうち約600誌の全文が見られます。看護系雑誌や出版物のほか、ヘルスケア関連の書籍・看護系学位論文・会議録・看護基礎実践本・教育用ソフトやビデオの情報など多様な資料をまとめて検索することができます。主な収録データの分野は、看護学、生体臨床医学、健康科学、代替医学、消費者健康など、関連する17の分野と幅広く、看護に必須の情報をカバーしています。

今回は、例として「褥瘡のラップ療法」についての文献を探すためCINAHLを検索してみます(検索日2018/6/19)。まず、検索画面を立ち上げます。【図書館ホーム>文献検索>全世界>CINAHL with Full Text】同時接続可能人数は4人ですので、検索終了時には画面右上「Go back to NARA MED UNIV LIBRARY」をクリックして終了するようにしてください。ログインしたら、データベースを選択します。CINAHLを提供するEBSCOでは、MEDLINEも提供していますのでそちらを検索することもできます。ここではCINAHLを検索したいので「CINAHL with Full Text」を選択します。



検索画面が表示されます。デフォルトでは詳細検索画面が設定されています。ここで「pressure ulcer (褥瘡)」と「food wrap (ラップ療法)」と入れて検索してみます。2件ヒットしました。

それぞれの文献に付与されているCINAHL Headings (文献の主題、PubMedでいうところのMeSH)を確認すると、「Pressure Ulcer」のほか、「Bandages and Dressings」、「Occlusive Dressings」が付与されています。これらはラップ療法、つまり密封包帯法についてのCINAHL Headingsですので、これらのCINAHL Headingsを検索語として使用します。まず、検索画面上部のタブ「CINAHL Heading」より、階層構造を確認します。

階層構造を確認すると、「Occlusive Dressings」の上位概念として「Bandages and Dressings」があることがわかります。ラップ療法は密封包帯法と言い換えられますので、密封包帯法を訳した「Occlusive Dressings」を検索に使用します。検索結果が少

なすぎる場合は、上位概念の「Bandages and Dressings」を使います。チェックボックスにチェックを入れて「検索データベース」をクリックします。



「Occlusive Dressings (CINAHL Headings)」を検索したところ514件ヒットしました。「pressure ulcer」をキーワード検索すると11,785件ヒットしました。この二つを掛け合わせるため、検索ボックス下の「検索履歴」をクリックします。掛け合わせたい二つのチェックボックスにチェックを入れ、「ANDを使用して検索」をクリックすると、検索結果50件になりました。

検索結果一覧画面より、各論文のタイトルをクリックするとその論文の詳細に切り替わります。詳細では、著者、雑誌名のほか、抄録、主要サブジェクト、PubMed IDやDOIがあればそれらも確認できます。全文があるものは「PDF全文」や「HTML全文」と表示されます。

検索結果を出力したいときは一度フォルダにデータを追加する必要があります。保存しておきたい文献データの右上にあるフォルダマークをクリックするか、検索結果の上にある「共有」→「フォルダに追加：結果」で1ページ単位でのフォルダへの追加も可能です。画面右上のフォルダをクリックすると保存した文献リストを確認できます。画面右に印刷や電子メール、別名で保存、エクスポートといった出力方法が出ていますので、こちらから出力します。



別名で保存では形式を選べます。抄録有無のほか、引用形式を選んで出力することもできますので、参考文献リストを作成する際には引用形式を指定してダウンロードしておくくと便利です。

CINAHLはPubMedよりも看護分野の索引付けが細かく、PubMedのMeSHにはないNANDA看護診断などのカテゴリもCINAHL Headingsに入っています。また検索オプションでは、第一著者を看護師に限定、MEDLINEレコードを除外、出版物タイプをアンケートやスケールに設定など、ほかのデータベースには見られないユニークな項目もあります。看護文献検索に必須のデータベースCINAHLをぜひご活用ください。

未来への飛躍基金だより

臨床研究中核病院承認に向けた支援を開始します

日頃は「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。
 お陰様で学業に励む学生にとって頑張りがいのある、能力を存分に発揮できる環境づくりを着実に進めています。
 それに加えて、今年度より、**本学が目指す臨床研究中核病院*に向け、基金を活用していくことといたしました。**
 次世代のより良質な医療の提供を可能にするためには、一人でも多くの方のお力添えが必要です。
 本基金は、ふるさと納税制度の利用により自己負担金2千円でご寄附いただけます。
 今後とも基金への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

*国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う事ができる病院

ふるさと納税制度寄附の仕組みをご紹介します

ふるさと納税制度を活用すると、2千円の自己負担で、奈良医大のために、税金を寄附することができます。

●年収600万円（住民税が年間30万円）の方の例

	平成30年	平成31年	計
寄附しない場合	<p>住民税 30万円 → 納税</p>	<p>住民税 30万円 → 納税</p>	60万円
税金の一部をふるさと納税寄附する場合	<p>寄附者 寄附 6万円 → 奈良医大 住民税 30万円 → 納税</p>	<p>寄附者 住民税 24万2千円 → 納税</p>	60万2千円

つまりわずか
2千円の支出増で
6万円の寄附が可能です！

- ※上記は、確定申告をしない場合の例です
 (確定申告不要で税の控除を受けることができるワンストップ特例制度を活用)
- ※確定申告をする場合は、所得税の還付と住民税の控除を受けることができます
- ※住民税の控除額については、寄附をした翌年6月の給与明細に同封されている『住民税決定通知書』でご確認いただけます
- ※実質2千円で寄附可能な上限額は、ご自身の給与等によって異なりますので、基金パンフレット及びHPに掲載している目安表等をご確認いただきますようお願いいたします

奈良県立医科大学総務課基金推進係

TEL : 0744-23-9973 (直通) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

4.4
~6

新入生オリエンテーションを行いました

医学科では 113 名、看護学科では 85 名の新入生を対象に、平成 30 年 4 月 4 日から 6 日にかけて先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。

また、医学科では 6 日に、看護学科では 5 日のガイダンス



医学科

終了後に新入生交流会を行い、学生は各グループに分かれて自己紹介を行うとともに先輩・後輩との交流を深めました。

両学科とも、新入生同士そして先輩との交流が深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせました。



看護学科

4.5

医療安全管理研修を行いました

平成 30 年 4 月 5 日新入職者を対象に医療安全管理研修を行いました。内容は、医療安全管理研修、医薬品安全管理研修、医療機器安全管理研修の 3 つの講義、そして講習の BLS 研修をローテーションして受講する形式でした。中でも BLS 研修は体育館に 16 ブース設置しました。受講生は胸骨圧迫の重要性や AED の使い方を実際に体験することができ、「学生の時経験していたが忘れていたのでよかった」「定期的にしてほしい」といった感想が聞かれました。AED や人形を前日から体育館に搬入し大変でしたが、当日は大きなトラブルもなく無事終了することができ、そして何よりもインストラクターとして院内から 8 名、院外から 10 名の方々にご協力いただけたことが、今回の研修を有意義なものにできた最大の要因と考えています。ご協力いただいたインストラクターの皆様、快く派遣に協力いただいた各所属長の皆様には深く感謝いたします。



BLS 研修

4.7

はっと!! KOBE 健康フェアに MBT 研究所が出展しました

「MBT 研究所だより」でも記載しておりますが、世界保健デー・神戸医療産業都市 20 周年を記念して、WHO 神戸センターにおいて開催された「はっと!! KOBE 健康フェア」に、MBT 研究所が出展しました。

当日会場では、関西公立私立医科大学・医学部連合による研究紹介があり、細井理事長・学長から、奈良医大の紹介、MBT の発想・現況について講演を行いました。

展示ブースでは、健康見守りを行うウェアラブル機器を展示し、興味を持たれた来場者の方に説明を行いました。



講演中の細井理事長・学長



展示ブース

4.12 奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

丹村敏則先生（知多厚生病院副院長）を講師にお迎えし、「知らなきゃ損！～漢方薬の効かざる、飲めざる、分からざるの克服に向けて～」を開催しました。今年度は「知らなきゃ損！」をテーマに丹村先生が日頃実践されている目からウロコの漢方薬活用術を学べるセミナー（全4回）となっています。第1回となる当日は、様々な困難症例における患者アドヒアランスの向上について、患者さん自身が理解、納得して積極的に漢方薬を治療に取り入れておられる実例について説明いただきました。



講演を行う丹村先生



(司会) 教育開発センター 藤本教授



会場となった巖櫃会館大ホール

5.13 「着物でジャズ、今井町」にMBT研究所が出展しました

「着物でジャズ、今井町」は、毎年春と秋に開催され、今井町の一角をお借りして、ジャズコンサートや健康ブースの出展などがあり、みなさまに楽しんでいただけるとても好評なイベントです。

MBT研究所においては、今井まちや館別館にて、健康ブースにおいて出展しました。メタボ・笑顔などの測定を行い、参加者の皆様が自身の健康について考えるよいきっかけ作りとなりました。また、対話ロボット Sota を使用したロボットセラピーもあり、来場者はロボットとの対話を楽しまれていました。



健康（メタボ）測定



ロボットセラピー

4.18 「ゆうドキッ！」に理事長・学長が出演しました

平成30年4月18日に奈良テレビで放送された「ゆうドキッ！」内の「奈良人十色」のコーナーに細井理事長・学長が出演し、本学が推進するMBT構想を中心に人材育成や医学を基礎とするまちづくりについて対談しました。奈良医大では、医学の知識や情報を活用して新しい視点からまちづくりを進めており、人材育成については、「県民のための大学である。ただそれだけでなく新しい発想や、それぞれの個性を生かして世界に羽ばたき高いレベルの医師・看護師を育てる。そして帰ってくることで奈良県のレベルが日本一になると考えている。」と熱い想いを語りました。



MBTについて熱く語る細井理事長・学長

5.28
5.30
5.31

公的研究費の適正使用に係る研修会 及び経理事務等説明会を開催しました

平成30年5月28・30・31日の3日間で計4回標記説明会を行いました。

今年度は、会計規程等の改正と、改正に伴う経理事務の変更点に重点をおいた説明会となりました。また、コンプライアンス教育を徹底するため、各所属に「公的研究費不正防止計画実施状況報告書」の提出も求めました。

4回の開催で、多数の研究者、教室職員等に参加いただき、公的研究費の適正使用や経理事務等について、熱心に耳を傾けていただきました。

今回出席できなかった先生方には、後日説明会の資料を送付しておりますが、下記の研究推進課の学内HPに資料や様式がありますので、ぜひご活用ください。

<http://www.naramed-u.ac.jp/gakunai/soshiki/kenkyu/yoshiki/index.html>



説明会の様子

6.1

平成30年度 新生児蘇生法 (NCPR) 講習会を開催しました

平成30年6月1日、巖櫃会館大ホールにて、NICU西久保敏也病院教授が講師、釜本智之助教と橋本綾師長がインストラクターを務め、新生児蘇生法講習会を開催しました。受講者は大学院生7名(看護学科助産学実践コース5名・医学科2名)、病棟助産師1名で、講義と基本手技の実演およびケースシナリオによる実習が行われ、最後にポストテストを受け約5時間の講習会が終了しました。テストに合格すれば「専門」Aコースが取得できます。受講生からは「講義により正常経過の理解が深まった」「新生児の挿管などドラマでしか見たことがなかった蘇生が実際にできた」などの感想が聞かれ、学んだ内容を臨床実習で活かそうかと助産学実践コース大学院生に問いかけたところ「まず呼吸と心拍が大事」という返事が返ってきました。テストでは覚えなければいけない数字も多く多少混乱したと話していましたが、後日、合格通知が届いたとこのことで、専門家としての資格取得の一環として貴重な機会となりました。



気道確保訓練の様子

5.30
5.31

モンゴルから臨床研修の視察に来られました

JICA(独立行政法人国際協力機構)では、「モンゴル国における一次及び二次レベル医療施設従事者のための卒後研修強化プロジェクト」に取り組んでおり、今回、当院の臨床研修がモデルケースに採択されました。

視察内容は、細井理事長をはじめとする役員表敬訪問に始まり、西尾総合医療学教授および赤井臨床研修センター長の講義、研修医へのインタビュー、施設見学など、多岐にわたるものでした。

「医師の理念、若い人材育成への熱心さを肌で感じ、感激した。」「次世代を無償で育成している指導医の姿勢がモンゴルの現状と違って大変親切だと感じた。」等の感想を頂き、本学においても、医師養成の重要性を再確認できる大変良い機会となりました。



6.8

チェンマイ大学病院看護師との文化交流

平成30年6月8日、チェンマイ大学病院からの研修生 Kraiwan Kaphan さん（小児病棟師長）と Saowanuch Somsri さん（救命救急看護師）のお二人に、文化交流プログラムの一環として茶道を体験していただきました。浴衣に着替えて初夏の日本の雰囲気味わってもらった後、看護学科4年生2名が先にお点前を披露しました。一服さし上げると「苦いね」と少し戸惑いながらもひとくちふたくちと飲んでくださり、その後、お二人も薄茶を点てて主人役を楽しまれました。お点前の後、浴衣姿で看護学科周辺を散策し、アジサイとともに記念撮影などを行いました。案内役の学生は「すごく楽しんでくださって嬉しかったです。とても気さくで、日本では師長さんたちとこんな風に話すなんて考えられない。8月の海外研修で再会するのが楽しみです。」と話していました。看護学科では、4年生の選択科目（国際看護論Ⅱ）で毎年8月中旬、チェンマイ大学にて短期研修を行っており、学生2名は研修参加予定です。



茶道体験

6.17

大学院看護学研究科のオープンキャンパス2018を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを平成30年6月17日に開催し、17名の参加がありました。

「看護学研究科長の挨拶」の後、看護学コースと看護学コース（女性健康・助産学）・助産学実践コースとに分かれ、「コースの概要の説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。

参加者からは、「具体的な大学院での生活がイメージでき、入学の意志が固まりました。」などの感想が聞かれました。

平成31年度の入学試験は、8月24日（二次募集：12月3日*）に実施されます。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



石澤看護学研究科長挨拶

輸血関連認定看護師について

私達、輸血関連の学会認定看護師は、臨床輸血看護師4名、自己血輸血看護師1名、アフエレーシスナース認定2名の計7名です。輸血療法での看護師の果たす役割は大きく、患者さんと一番身近に接する私達が、正しい知識を持って関わることはとても重要です。安全な輸血療法が行えるように学会認定の輸血看護制度が発足され、私達も今年度から活動を開始しました。輸血に関する事はなんでも私達までご用命下さい。まずは輸血部（3232）まで。



Winner Report

10.20 ～22 第55回日本癌治療学会で 最優秀演題賞を受賞しました

口腔外科学 講師 山川 延宏

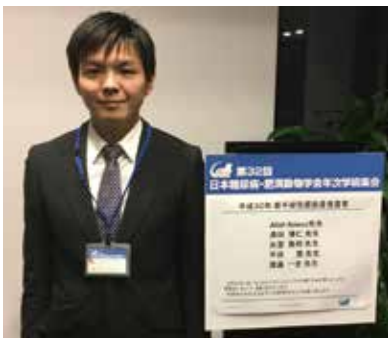
平成29年10月20日～22日に開催された第55回日本癌治療学会において最優秀演題賞を受賞させていただきました。多岐にわたる分野から多くの演題が登録されているなか、このような賞を受賞することができて大変うれしく思います。今回の演題は口腔癌の転移を予測する新たな因子の同定を目的としてまとめた内容です。ご協力いただいた多くの先生方に感謝申し上げます。



2.24 第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次 学術集会以若手研究奨励賞を受賞しました

糖尿病学講座 大学院生 栗田 博仁

高齢化、多様化する糖尿病患者診療に対して、グルコース濃度に応答して物理的性質が瞬時に変化するフェニルボロン酸を含む高分子ゲルを利用し、エレクトロニクスフリーの形式で自律的にインスリン投与のできるデバイス開発を試みました。そして、その研究成果を第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会以て発表し、若手研究奨励賞を受賞いたしました。受賞演題名は「グルコース応答性ゲルを用いたエレクトロニクスフリーな新規インスリンデバイスの開発」です。今回の受賞を励みとして、これまで以上に精進して研究に励んで参りたいと思います。



3.2 第16回日本病院総合診療医学会学術総会 で最優秀会長賞を受賞しました

総合医療学 診療助教 宮本 真紀子

(現：済生会中和病院)

この度、平成30年3月2日第16回日本病院総合診療医学会学術総会において、「深部静脈血栓症患者（DVT）の肺塞栓症除外診断における可溶性フィブリンの有用性」の演題で、最優秀会長賞を受賞しました。DVTの致死的な合併症である肺動脈塞栓症（PE）の有無を可溶性フィブリン（SF）の値により予測できるか検討した調査で、SFが正常ならPEが否定できる傾向があるという結果を報告しました。在宅診療や外来診療の場においても利用価値が高い調査結果であり、今後も症例数を増やし、継続的な調査を行っていききたいと思います。

受賞にあたり、ご指導をいただいた総合医療学講座の西尾健治教授はじめ、ご協力くださった当教室の先生方に深謝いたします。



3.9 第18回AKUA学術集会以 研究助成金を頂きました

泌尿器科学 診療助教 森澤 洋介

(現：市立奈良病院勤務)

この度光栄にも旭化成ファーマ株式会社主催の第18回AKUA学術集会以て「膀胱における尿再吸収機構の解明～夜間頻尿治療への応用を目指す研究～」が優秀テーマに選ばれ、研究助成金を頂きました。本研究を遂行するにあたり多大なるご指導とご尽力を賜りました藤本清秀教授、鳥本一匡先生、研究にご協力いただいた皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本研究はラットによる動物実験にて排尿・蓄尿以外の膀胱生理機能としての尿再吸収機構について解明することを目的としています。本研究は未解明の膀胱生理機能を解明することですが、本研究が高齢者の夜間頻尿や小児の夜尿症などのさまざまな下部尿路機能障害の病態の解明・治療に広く応用されることを期待しています。今後もさらに基礎研究に励み臨床に貢献していく所存です。

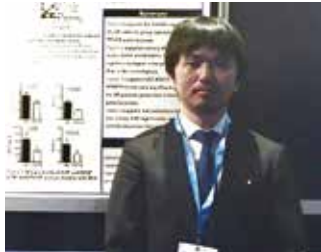


Winner Report

3.16 ~ 20 第33回ヨーロッパ泌尿器科学会総会でベストポスター賞を受賞しました

泌尿器科学 診療助教 森澤 洋介 (現: 市立奈良病院勤務)

この度光栄にもデンマーク・コペンハーゲンで開催された第33回ヨーロッパ泌尿器科学会総会 (33rd Annual EAU Congress) にて「Urinary nerve growth factor and brain-derived neurotrophic factor can predict therapeutic efficacy in children with monosymptomatic nocturnal enuresis」の演題でベストポスター賞を頂きました。本研究を遂行するにあたり多大なるご指導とご尽力を賜りました藤本清秀教授、青木勝也先生、研究にご協力いただいた皆様にごこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



本研究では小児夜尿症患児の治療効果を予測する尿中バイオマーカーとして Nerve growth factor と Brain-derived neurotrophic factor に注目し、臨床の現場で広く応用されることを期待しています。今後も小児泌尿器科領域を含めてさまざまな領域について基礎研究・臨床研究ともに励み貢献できるように努力いたします。

4.1 日本学術振興会 海外特別研究員に採用されました

精神医学講座 助教 山室 和彦

この度、「社会性行動の神経回路基盤の解明とその克服」を研究テーマとして、日本学術振興会 海外特別研究員に採択されました。平成 29 年 4 月よりマントサイナイ医科大学に留学しておりますが、平成 29 年度の内藤記念科学振興財団海外研究留学助成金に引き続き、平成 30 年度より海外特別研究員に採用して頂くこととなりました。このような伝統のある機関から基礎研究の分野で海外研究留学助成金を頂くことができたことは、岸本教授を中心に諸先輩方々が臨床研究のみならず基礎研究にも力をいれ業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、いつも支えてくれている家族にもこの場を借りて感謝したいと思います。



4.5 ~ 7 第118回日本外科学会定期学術集会でプレナリーセッションに選出、優秀演題賞を受賞しました

胸部・心臓血管外科学 助教 山下 慶悟

第 118 回日本外科学会定期学術集会でプレナリーセッションに選出され、優秀演題賞 (心臓血管外科領域における最優秀演題) を受賞することができました。大動脈弁狭窄症患者の大動脈弁置換術後の予後予測に肺動脈の伸縮性をみる pulmonary arterial capacitance (PAC) の術前の値が重要であることを発表しました。PAC は右室後負荷を鋭敏に表すものであり、将来、大動脈弁狭窄症患者の手術適応の重要なマーカーになる可能性があると考えています。今後も症例を重ね PAC の可能性について幅広く研究していきたいと思っております。最後に指導して頂きました谷口繁樹教授、阿部毅寿先生をはじめ多くの先生方に深く感謝申し上げます。

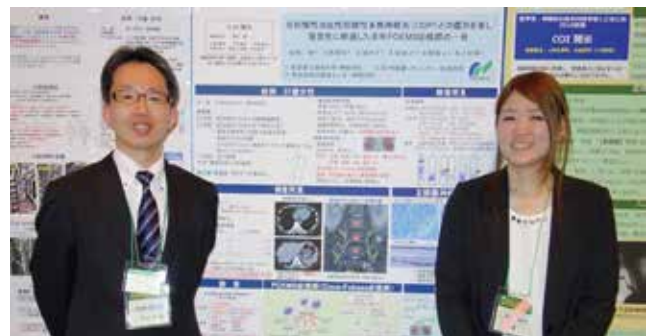


4.14 第115回日本内科学会総会で優秀演題賞・指導教官賞を受賞しました

脳神経内科学講座 医員 塩田 智

脳神経内科学講座 教授 杉江 和馬

平成 30 年 4 月 14 日に京都市みやこめっせで開催された第 115 回日本内科学会総会における「日本内科学会ことはじめ 2018 京都」で、本学脳神経内科学講座の塩田 智医員が優秀演題賞を、杉江和馬教授が指導教官賞を受賞しました。演題「当初慢性炎症性脱髄性多発神経炎 (CIDP) との鑑別を要し亜急性に経過した若年 POEMS 症候群の一例」は、当講座と本学呼吸器内科学講座との共同研究による成果であり、POEMS 症候群の病態と発症機序を考える上で貴重な症例研究でした。若手医師にとっては今後の診療および研究の大きな励みとなります。当講座としても、さらに後進の指導に情熱をもって取り組む所存です。



4.24

2017年度国際ソロプチミスト女子大学生奨学金給付の受給者に決定しました

医学部医学科6年生 檜山 愛子

この度は、「2017年度ソロプチミスト女子大学生奨学金給付」の受給者に選出していただき、身に余る光栄に存じます。

私は、現在医学科6年生として臨床実習に励みつつ、免疫学講座の伊藤利洋教授の指導のもと「特発性肺線維症に対する幹細胞療法の試み」というテーマで研究を続けています。幸い、本年6月にメルボルン（オーストラリア）で開催の国際幹細胞学会（ISSCR）にてポスター発表をする機会があり、基礎医学研究者として歩む夢の一步と位置づけ、非常に楽しみにしています。また、女性研究者支援センターの須崎康恵先生には日頃からキャリア形成に関する相談にのっていただき、私自身の心の支えになっています。

今回の受賞は、将来の夢を応援して下さる多くの方々のご支援の賜物と心より感謝しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



5.14

看護功労者知事表彰を受賞しました

看護部 副部長 福山 麻里

中央内視鏡部 師長 森川 知子

E棟六階北 看護主任 中山 明美

看護功労者知事表彰を受賞し年月の流れを痛感しました。私達が就職した頃に比べ、社会も看護界も変化しています。今後超高齢化社会が更に進展し、AI（人工知能）が活用され、全てにおいて効率化されることが予測されています。しかし、看護の基本となるものは変わることなく、看護部理念「人間を愛する心と、かけがえのない命を大切にします」の基に、私達にしかできない大好きな仕事に誇りを持ち働き続けたいと改めて感じました。



5.19

第36回 Cytoprotection 研究会で奨励賞を受賞しました

内科学第三講座 学内講師 鍛冶 孝祐

この度、「SGLT2阻害による糖代謝制御を標的とした肝臓治療の試み」という演題で平成30年5月19日に開催された第36回 Cytoprotection 研究会において奨励賞を受賞しました。この研究会は消化器疾患における基礎研究を対象としたもので、年次2演題に対して奨励賞が贈られます。研究に御協力、サポート頂いた吉治仁志教授を始め、当教室の先生方へ厚く御礼申し上げます。

5.24
~26

第61回日本糖尿病学会年次学術集会で YIA : Young Investigator Awardを受賞しました

糖尿病学講座 大学院生 栗田 博仁

この度、第61回日本糖尿病学会年次学術集会で、若手研究奨励賞（YIA : Young Investigator Award）を受賞いたしました。受賞演題名は「エレクトロニクスフリーな人工膵臓様デバイスによる新規糖尿病治療戦略の開発」です。高齢化、多様化する糖尿病患者診療に対して、フェニルボロン酸のグルコース応答特性を利用し、皮下に留置することで血糖値に対して自律的にインスリン投与のできるエレクトロニクスフリーな人工膵臓様デバイスの開発を試みました。ご指導いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。



5.26

第100回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会で奨励賞を受賞しました

内科学第三 医員 玉田 喜規

平成30年5月26日に大阪市で開催された第100回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会における Young



Endoscopist Session（口演発表）で、本学内科学第三講座の玉田喜規専攻医が奨励賞である Young Endoscopist Award を受賞しました。演題「山田Ⅲ型ポリープ形態を呈した腎細胞癌の胃転移の1例」は転移性胃腫瘍の中でも非常に稀な腎細胞癌の胃転移を考察したものであり、興味深い形態について検討を行った貴重な症例でした。

Winner Report

5.31 6.2 第47回日本IVR学会総会でCertificate of Excellence Featured Abstractを受賞しました

放射線科・IVRセンター 大学院生 松本 武士

平成30年5月31日から6月2日にグランドニッコー東京で開催されました「第47回日本IVR学会総会」でCertificate of Excellence Featured Abstractを受賞しました。受賞演題名は「Search results in superselective cTACE with 3D-safety margin versus RFA for solitary small HCC」です。今回の受賞に際しまして、御指導頂きました吉川公彦教授をはじめ、田中利洋准教授、西尾福英之先生に厚く御礼申し上げます。これを励みに、今後さらに医学の発展に貢献していきたいと思っております。



6.11 平成30年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(国際交流センター)

平成30年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の5名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

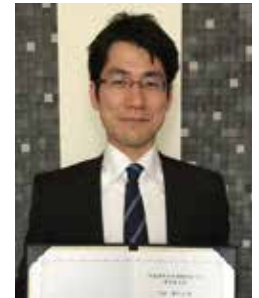
皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
微生物感染症学講座	大学院生	鈴木 由希
総合医療学講座	医員(大学院生)	田井 義彬
第三内科学講座	学内講師	北出 光輝
泌尿器科学講座	助教	三宅 牧人
薬理学講座	助教	京谷 陽司

6.14 第42回日本頭頸部癌学会で平成29年優秀論文賞を受賞しました

口腔外科学 医員 上山 善弘

平成30年6月14日に東京で開催された第42回日本頭頸部癌学会において、平成29年優秀論文賞を受賞しました。受賞論文名は「口腔癌患者の放射線治療中における摂食障害発生リスク因子について：胃瘻造設の判断基準の検討」です。放射線治療を行う口腔癌患者の、治療前に行う胃瘻造設の適応について、後方視的に検討しました。



受賞に際しまして、桐田教授はじめ、ご指導いただきました先生方には心より感謝申し上げます。

6.16 平成30年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

平成30年6月16日、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成30年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外での学術の研究、調査等をする者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金として支給しているものです。

今回の受賞者は、精神医学講座の山室和彦助教に決定しました。平成29年4月1日から2年間の予定で、アメリカのマウントサイナイ医科大学精神科に現在留学中です。



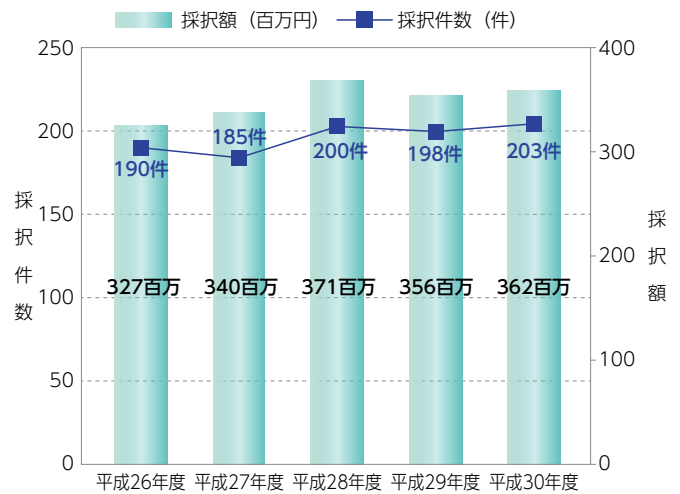
留学先の同僚たちと(後列左がご本人)

平成30年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

平成30年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金〔文部科学省、独立行政法人日本学術振興会〕）が決定しました。

平成30年6月30日現在の状況は表のとおりです。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
平成30年度	203	361,920	278,400	83,520
平成29年度	198	355,990	273,970	82,020
平成28年度	200	371,033	285,710	85,323
平成27年度	185	340,304	262,184	78,120
平成26年度	190	327,390	252,300	75,090



平成30年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	データ科学・疫学・臨床医学の融合による日本の保険診療情報 (NDB) の全解析	30～34
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二解剖学	講師	田中 達英	白質内オリゴデンドロサイトにみられるパターン形成とその起源	29～30
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第一解剖学	教授	西 真弓	視床下部新規神経領域 PeFAH による意欲制御メカニズムの神経基盤の解明	29～30
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	准教授	大林 賢史	光曝露がサーカディアンリズム関連疾患に及ぼす影響に関する縦断研究	27～30
基盤研究 (B)	—	医学部長	車谷 典男	青年・壮年・中年期の光曝露が生体リズムと睡眠の質に及ぼす影響に関する疫学研究	27～30
基盤研究 (B)	看護学科 在宅看護学	教授	小竹久美子	全喉頭摘出者の心理的適応促進のための RCT 看護介入効果検証	27～30
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	特任教授	森 俊雄	DNA 損傷特異抗体を損傷除去修復薬に進化させる	28～30
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	マウス ES 細胞の超未分化状態の解明と他種 ES/iPS 細胞の初期化への応用	28～30
基盤研究 (B)	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudin-4 標的化抗体によるがん治療法確立の基盤研究	28～31
基盤研究 (B)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	Flt-1 系を介する心腎連関分子機序の解明：新規 LncRNA の関与	28～30
基盤研究 (B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	呼吸器感染症がもたらす慢性呼吸器疾患増悪の分子基盤の解明	28～31
基盤研究 (B)	精神医学	講師	牧之段 学	自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	28～31
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	非常勤講師	山田 高嗣	膵島の生体内リプログラミング技術を用いた糖尿病の新規治療法の開発	28～30
基盤研究 (B)	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	多能性幹細胞を用いた内耳有毛細胞の創生から細胞移植治療へ	28～31
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	酸化ストレスに対する防御機能を有する人工赤血球製剤の創製と体内評価	29～31
基盤研究 (B)	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病 A 分子病態の解明と第 VIII 因子高機能化に関する研究	29～31
基盤研究 (B)	看護学科 成人看護学	教授	石澤美保子	在宅看護における医療関連機器圧迫創傷の予防および管理方法の構築	29～32
基盤研究 (B)	精神医学	教授	岸本 年史	多次元解析による神経性無食欲症のサイコバイオティクスの同定：治療薬の創発に向けて	30～33
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川正俊	高 LET 放射線と抗 VEGF 抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明	30～33
基盤研究 (B)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	EGFRvIII 特異的 CAR 発現 iPS 由来 NK 細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究	30～32
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発	27～30
基盤研究 (C)	整形外科	准教授	朴木 寛弥	Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the novel treatment strategy against sarcomas	27～30
基盤研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	坂東 春美	禁煙困難な状況下でも出産後再喫煙しない母親 (ポジティブデビアン) はなぜいるか？	27～31
基盤研究 (C)	女性研究者支援センター	講師	須崎 康恵	アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した新たな医学部ジェンダー教育の構築	28～30
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	岩坂 英巳	専門プログラムを用いた発達障害児支援者養成システム作りに関する研究	28～30
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林千余子	淡水棲ミズクラゲの性決定の謎を追う	28～30

Winner Report

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	川口 龍二	簡便かつ安全に実施可能な術後静脈血栓症の管理基準の確立	28～30
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	夏の室温上昇は睡眠障害・夜間血圧上昇と関連するか？-カフレス脈波血圧を用いて-	28～30
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	ヒトとマウスの気腔形態評価指標の比較から推察する COPD エンドタイプ	28～30
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	助教	藤田 幸男	呼吸波解析を活用した新たな COPD 治療戦略の構築 -呼吸の安定化を目指して-	28～30
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患の新規治療戦略：全身性炎症の抑制をめざして	28～30
基盤研究 (C)	神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患におけるオートファジーを介した蛋白分解機構と病態機序の解明	28～30
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	カルバペナーゼ産生大腸菌・肺炎桿菌感染症の新規治療法構築に向けた包括的研究	28～30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	助教	中川 隆志	Thrombopas を用いた新生児 PC 制御機構の解明と新たな治療法の開発	28～30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	病院教授	西久保敏也	VWF/ADAMTS-13/FⅧ制御軸による極低出生体重児の脳室内出血の病態解明	28～30
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	王寺 幸輝	Wnt シグナルによる発毛の制御	28～30
基盤研究 (C)	皮膚科学	准教授	小豆澤宏明	次世代の薬剤誘発リンパ球刺激試験の開発	28～30
基盤研究 (C)	精神医学	学内講師	鳥塚 通弘	シナプスプルーニング仮説に基づく iPS 細胞由来神経培養系での統合失調症病態解明	28～30
基盤研究 (C)	精神医学	講師	芳野 浩樹	社会経験で発達する前頭前野の局所的興奮・抑制性回路は治療ターゲットになるか	28～30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	右田 和寛	ユビキチン修飾系異常を介した癌進展機序の包括的解明と新規治療法の開発	28～30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	北東 大督	T細胞不活化経路をターゲットとする大腸癌肝転移の新規免疫療法の開発	28～30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	野見 武男	肝切除後肝不全における ADAMTS13 の関与及び新規肝不全治療戦略の確立	28～30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	赤堀 宇広	Myosteatosis の病態解明による肝癌新規集学的治療戦略の開発	28～30
基盤研究 (C)	胸部・心血管外科学	教授	谷口 繁樹	ゼラチンシートの開発	28～30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	中川 一郎	ミトコンドリア KATP チャンネルを介した虚血耐性現象のメカニズム	28～30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	講師	西村 文彦	EGFRvIII 特異的 CAR 導入免疫細胞を用いた膠芽腫治療法の開発	28～30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	松田 良介	超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞および PD-1 阻害薬併用療法の開発	28～30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	田村 健太郎	術中皮質脳波におけるセボフルラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か	28～30
基盤研究 (C)	中央手術部	講師	恵川 淳二	頭部外傷に対するミノサイクリンの脳への直接投与の有効性についての検討	28～30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	助教	中井 靖	膀胱癌細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明とその臨床応用	28～30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	石橋 道男	マクロファージの内在性レトロウイルス応答調節と血管保護による多発性嚢胞腎進展抑制	28～30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	成瀬 勝彦	炎症惹起因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明	28～30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	吉田 昭三	受容体を覆う「バンドエイド型」次世代ペプチド薬を用いた卵巣がん治療	28～30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	子宮体部病変に対する極細複合型光ファイバー内視鏡診断と治療法の確立	28～30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門 (MFICU)	助教	吉元 千陽	MR スペクトロスコピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜症発癌リスクの新たな評価法	28～30
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	成尾 一彦	妊娠中における騒音ならびに分子標的薬の胎児聴覚への影響	28～30
基盤研究 (C)	めまいセンター	病院教授	山中 敬彰	重度平衡障害者に対する感覚代行リハビリテーションの持続し効果とその実用化	28～30
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	教授	松田 明子	外来 RA 患者の BIO 投与に関する臨床薬理学分野の看護実践教育プログラムの構築	28～31
基盤研究 (C)	看護学科 小児看護学	教授	川上あずさ	自閉スペクトラム症児の母親がもつ「まもり」の検証と支援方法の構築	28～30
基盤研究 (C)	動物実験施設	教育教授	久保 薫	シンバイオティクスによる乾癬の予防・治療に関する研究	29～31
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	講師	青山美智代	看護リテラシー教育としての看護過程を活性化する IBL 教育プログラム開発	29～32
基盤研究 (C)	化学	助教	松平 崇	高分子鎖を介して多重連結されたヘモグロビン集合体の合成と体内酸素運搬機能の評価	29～31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	スポーツの種類や選手個人の特性を考慮した重力感受性トレーニング法の開発	29～31
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謹子	視床下部新規領域が司る burying 行動と自閉症における常同行動との関係性	29～31
基盤研究 (C)	第一生理学	准教授	豊田ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理メカニズムの解明	29～31
基盤研究 (C)	化学	准教授	山本 恵三	カルバペナーゼの活性上昇に関与するアミノ酸残基の網羅的特定と立体構造変化の解析	29～31
基盤研究 (C)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	尺度開発理論と疫学の融合による行動嗜好のスクリーニングテストの統合的開発	29～31
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任准教授	富岡 公子	どんな社会参加が健康長寿につながるのか？-地域前向きコホート研究より-	29～31
基盤研究 (C)	医療情報部	病院教授	玉本 哲郎	放射線治療の業務の標準的な見える化と遠隔での安全な治療実施支援法の確立	29～31

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	法医学	助教	工藤 利彩	新規メディエーター誘導型内皮依存性過分極因子を介するエタノールの血管機能調節機構	29～31
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	准教授	山内 基雄	多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす—	29～32
基盤研究 (C)	第三内科学	教授	吉治 仁志	Drug repositioning による肝疾患進展抑制治療法の開発	29～31
基盤研究 (C)	第三内科学	医員	野口 隆一	NASH 発症進展に関わる腸内細菌の影響とエクオールの効果	29～31
基盤研究 (C)	輸血部	助教	早川 正樹	重症大動脈狭窄症に合併する消化管出血のフォンビレブランド因子による病態解析	29～31
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	講師	本津 茂人	肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	29～32
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	講師	秦野 修	質量分析イメージングと標的プロテオミクスによるステロイドホルモン産生異常の解析	29～31
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 竜一	薬剤耐性肺炎桿菌感染症の制御を目指した耐性菌出現機構の解明	29～31
基盤研究 (C)	小児科学	講師	武山 雅博	APC および PS による第 VIII 因子制御機構の解明および新規血友病製剤への応用	29～31
基盤研究 (C)	小児科学	助教	志田 泰明	血流下での血管内皮細胞の応答機構と血液凝固第 VIII 因子の機能発現	29～31
基盤研究 (C)	小児科学	助教	荻原 建一	フォン・ウィルブランド因子 D'D3 ドメイン—塩基多型の分子生物学的解析	29～31
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	ウイルス由来 microRNA に着目した DIHS の病態解明と新規診断法の開発	29～31
基盤研究 (C)	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	小脳構造と協調運動および自閉スペクトラム症諸症状との相関解析	29～31
基盤研究 (C)	放射線医学	講師	西尾福英之	ナンドラッグデリバリーシステムと分子イメージングを融合させた新規 IVR 治療の開発	29～31
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	本山 靖	前頭眼野 (FEF) 刺激による術中誘発眼球運動モニタリング (PEEM) の開発	29～31
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	古川 彰	骨癒合性を付与した PEEK 製脊椎インプラントの研究	29～31
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	生体内誘導骨形成膜とハイブリッド人工骨の融合による新規骨再建法の開発	29～31
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	藤岡 保昌	障害骨組織における再生遺伝子 Reg の発現動態の解析および骨再生促進法の開発	29～31
基盤研究 (C)	手の外科講座	教授	面川 庄平	細胞外マトリックス (ECM) シートを用いた難治性偽関節の低侵襲治療法の開発	29～31
基盤研究 (C)	泌尿器科学	学内講師	鳥本 一匡	膀胱における尿再吸収機構の解明 - 夜間頻尿治療への応用を目指す研究 -	29～31
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	新納恵美子	HE4 と TFP12 の組み合わせによる卵巣明細胞癌早期発見法	29～31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	西村 忠己	軟骨伝導補聴器のハウリングのメカニズムの解明とその防止	29～31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴発生時の内耳細胞内分子動態の解明と内耳を舞台とした新規治療法の開発	29～31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	太田 一郎	頭頸部がん微小環境におけるがん幹細胞の EMT を介した浸潤・転移機構の解明	29～31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	上村 裕和	再発頭頸部癌に対する硼素中性子捕捉療法標準治療化におけるバイオマーカーの探索	29～31
基盤研究 (C)	法医学	准教授	粕田 承吾	急性アルコール中毒時の NETs 形成に及ぼす影響—敗血症増悪機構の解明—	29～31
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	笹平 智則	TANGO による口腔癌の転移前ニッチ形成機構の解明	29～31
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	松末友美子	ラマン分光法を用いた新たな早期口腔癌診断システムの開発	29～31
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するリンノ球と分子標的薬を併用した新規免疫細胞療法確立	29～31
基盤研究 (C)	看護学科 母性看護学	教授	五十嵐稔子	分娩施設から遠方居住の妊産婦へのケアプログラム開発と電子母子手帳による効果の検証	29～31
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	講師	高橋 弘雄	神経活動依存的な転写因子 Npas4 が脳梗塞から脳を守るメカニズムの解明	30～32
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	垂直眼球運動系の神経積分器における持続的活動を生成するための神経回路メカニズム	30～32
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	和中 明生	GABA 神経伝達に特化した新しいアストロサイト集団の同定とその機能解析	30～32
基盤研究 (C)	病理診断学	講師	藤井 智美	膀胱癌特異的なマイクロ RNA および遺伝子発現機序に基づいた病理組織学的診断の確立	30～32
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子	HLA-F を標的とした新規がん免疫療法およびがん診断マーカー開発	30～32
基盤研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	癌の増大と転移への ADAMTS13/VWF 因子の影響	30～32
基盤研究 (C)	精神医学	講師	山内 崇平	自閉スペクトラム症における M2 マクロファージ機能不全に着目した病態解明	30～32
基盤研究 (C)	放射線医学	准教授	田中 利洋	切除不能・再発肺癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた肺動注療法開発	30～32
基盤研究 (C)	RI 実験施設	准教授	菓子野元郎	遅発性活性酸素を抑制するがん細胞特異的因子は放射線治療の標的となりうるか	30～32
基盤研究 (C)	血友病教育講座	助教	矢田 弘史	中等症・軽症血友病 A における第 VIII 因子の凝血学的特性に基づく新規治療戦略の開発	30～32
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	血液凝固における第 VIII 因子制御軸の解明と血友病 A 及び血栓性疾患の新規治療への応用	30～32
基盤研究 (C)	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医薬の開発と評価	30～32
基盤研究 (C)	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	慢性腎臓病高齢者を対象とした認知機能障害と動脈硬化に関する縦断的コホート研究	30～32
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北島 正大	自己抗体産生におけるインターフェロン誘導性ヒストン修飾酵素 SETDB2 の機能解明	30～32
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	池田 直也	トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望	30～32

Winner Report

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	胸部・心血管外科学	助教	河合 紀和	脱細胞化マトリックスを用いた幹細胞由来肺細胞分化誘導と肺再生医療への応用	30～32
基盤研究 (C)	胸部・心血管外科学	助教	安川 元章	肺癌手術症例における hybrid E/M の臨床病理学的探索	30～34
基盤研究 (C)	麻酔科学	講師	林 浩伸	胸部大動脈人工血管置換術中のレーザーパッケルフローグラフィーによる眼血流測定	30～33
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	井上 聡己	スーパーオキシドリッチ環境が脳虚血再還流に与える影響	30～33
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	小川 憲二	CD44 のバリエーションフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立	30～32
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	榎瀬 康仁	細胞周期監視機構を標的とした難治卵巣明細胞癌の新規治療法の開発	30～32
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	子宮内膜症の微小環境における酸化還元反応のバランス変化に基づく発癌仮説の構築	30～32
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	北野 公一	メニエール病診断法の開発ー内リンパ水腫の新しい評価法の確立ー	30～32
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	山下 哲範	新規耳鳴治療のための耳鳴動物実験モデルの確立	30～32
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方奈保子	眼の加齢性変化と全身因子、生活環境、QOL	30～32
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	山本 一彦	口腔癌における反復配列 RNA の発現と機能の解明	30～32
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針	30～32
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	栗原 都	MIA2 関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開	30～32
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顎顔面の形態発生を制御する新規シグナル伝達機構	30～33
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	講師	升田 茂章	外来化学療法を受ける患者の手足症候群を予防するための看護ケアプログラム開発	30～32
基盤研究 (C)	看護学科 在宅看護学	助教	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断の実態とプロセス	30～32
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態と関連する要因	30～32
基盤研究 (C)	看護学科	非常勤講師	入江 安子	地理学の GIS、空間疫学、ネットワーク分析の適用を試みた地域診断の開発	30～32
基盤研究 (C)	看護学科 老年看護学	教授	澤見 一枝	認知症予防における発見的介入：居宅や施設を訪問して介入する人材の養成と効果の検証	30～34
基盤研究 (C)	リハビリテーション科	病院教授	城戸 顕	骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	30～33
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	がん性サルコペニアに対する特異的マーカーの確立と HMGB1 標的化による抑制	30～32
挑戦的萌芽研究	組換え DNA 実験施設	教育教授	杉浦 重樹	損傷のタイプに応じて修復を亢進させる損傷特異的人工エンドヌクレアーゼの応用	28～30
挑戦的萌芽研究	看護学科 公衆衛生看護学	講師	小松 雅代	ICF を用いての神経・筋疾患難病患者の家族介護者へのレスパイトケアの指標開発	28～30
挑戦的研究 (萌芽)	第一解剖学	教授	西 真弓	虐待が繰り返される神経基盤の解明	29～31
挑戦的研究 (萌芽)	分子病理学	教授	國安 弘基	骨格筋で癌を阻害する一食品と運動のパッケージによるエネルギー代謝介入効果の検討	29～31
挑戦的研究 (萌芽)	第二生理学	教授	堀江 恭二	新規長期 1 細胞追跡法を用いた全能性状態の継続的計測と全能性幹細胞の樹立	30～31
若手研究 (B)	第三内科学	学内講師	鍛冶 孝祐	エピジェネティックアプローチによる肝線維化治療の開発	28～30
若手研究 (B)	精神医学	助教	松田 康裕	統合失調症の認知矯正療法による脳の白質微細構造および機能的結合の変化に関する検討	28～30
若手研究 (B)	放射線医学	学内講師	市橋 成夫	新期薬剤溶出型バイオカバードステントの開発	28～30
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	脳静脈虚血における内因性神経幹細胞応用の基盤研究	28～30
若手研究 (B)	口腔外科学	助教	山本育功美	抗癌剤治療における味覚障害発生機序の解明と有効な治療法の開発	28～30
若手研究 (B)	口腔外科学	学内講師	柳生 貴裕	細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	28～31
若手研究 (B)	看護学科 成人看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域における緩和ケア実践プログラムの開発	28～30
若手研究 (B)	数学	助教	川口 良	偏極トーリック多様体の断面不変量と整凸多面体の関係の研究	29～31
若手研究 (B)	分子病理学	助教	谷 里奈	新規ゲムシタピン耐性機構の研究	29～30
若手研究 (B)	微生物感染症学	助教	中野 章代	ワンヘルスアプローチで目指す薬剤耐性菌出現の原因究明と蔓延予防策の構築	29～31
若手研究 (B)	精神医学	助教	松岡 究	アルツハイマー型認知症に伴う精神症状に関するドーパミン・セロトニン神経の統合的検討	29～31
若手研究 (B)	精神医学	学内講師	紀本 創兵	統合失調症の脳神経スパイン密度低下における RNA 結合タンパク質の制御機構の解明	29～30
若手研究 (B)	精神医学	博士研究員	井川 大輔	心的外傷後ストレス障害におけるマイクログリア由来 BDNF の多角的解析	29～30
若手研究 (B)	放射線医学	助教	正田 哲也	肝細胞癌に対する TACE における SPG 膜乳化新規 W/O エマルジョンの開発	29～30
若手研究 (B)	放射線医学	医員	越智 朋子	リボソームを用いた腎毒性を低減させる新規造影剤の開発	29～30
若手研究 (B)	中央放射線部	技師	藤谷 信将	FFF ビームによる高線量率外部照射における治療効果の検討	29～31
若手研究 (B)	放射線医学	医員	太地 良佑	超音波弾性画像を用いた動注化学療法に対する抗腫瘍効果判定の基礎研究	29～30
若手研究 (B)	脳神経外科学	助教	輪島 大介	EPA・DHA、スタチンの脳静脈灌流障害による脳梗塞進展抑制効果の検討	29～30
若手研究 (B)	集中治療部	助教	西和田 忠	麻酔関連薬剤の長時間曝露が口腔癌細胞の生存に影響を与えるか？	29～31

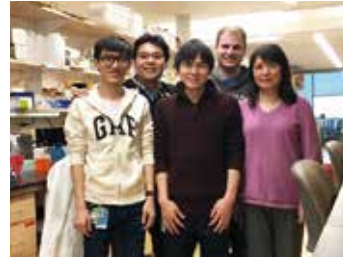
研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	伊藤 妙子	めまい平衡障害モデルマウスの開発と平衡リハビリテーションへの応用	29～31
若手研究 (B)	眼科学	助教	宮田季美恵	早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究	29～31
若手研究 (B)	集中治療部	助教	園部 奨太	急性呼吸促進症候群におけるヒストンメチル化酵素 Setdb2 の役割と臨床的意義	29～31
若手研究 (B)	口腔外科学	医員	上山 善弘	顎骨における放射線性骨壊死の制御を目的とした間葉系幹細胞の研究	29～31
若手研究 (B)	看護学科 母性看護学	助教	岡山 真理	助産学修士課程で修士研究に取り組む成果と課題	29～31
若手研究 (B)	看護学科 公衆衛生看護学	助教	堀内沙央里	奈良県の Helicobacter spp. による環境汚染とヒトへの感染経路の解明	29～31
若手研究 (B)	リウマチセンター	医員	速水 直生	前腕骨における骨折・脱臼と靭帯損傷の関連	29～32
若手研究 (B)	臨床研修センター	助教	岡田 定規	日本人糖尿病患者における低用量アスピリン療法の発癌抑制効果に関する研究	29～30
若手研究 (B)	救急医学	助教	奥田 哲教	重症脊髄損傷に対するナノテクノロジーと細胞シート工学のハイブリッド治療法の開発	29～31
若手研究	第二生理学	助教	吉田 純子	マウス ES 細胞の神経分化抵抗性に関与する新規遺伝子の機能解析	30～32
若手研究	第二生理学	助教	柏木 克信	SWI/SNF クロマチンリモデリング因子によるクロマチン構造変換調節機構の解明	30～32
若手研究	病理診断学	医員	内山 智子	間歇的低酸素によるアディポカイン発現とその分子機構の解明	30～31
若手研究	病理診断学	助教	中井登紀子	肺腫瘍間質における弾性線維合成機序の解明	30～32
若手研究	放射線医学	医員	南口貴世介	ピーズTAE後の血行動態の解明とパラメトリックイメージングによる効果判定の確立	30～31
若手研究	放射線医学	医員	立元 将太	世界初の酸化的 DNA 損傷抗体を用いた肝動脈化学塞栓術における DNA 損傷蓄積の評価	30～31
若手研究	放射線医学	医員	田口 秀彦	凍結肩に対する新規低侵襲治療に関する研究：作用機序の解明と効果の画像評価法の確立	30～31
若手研究	小児科学	医員	辻井 信之	川崎病の病態・合併症における VWF-ADAMTS13 軸の解明及び新規治療薬の開発	30～33
若手研究	小児科学	医員	大西 智子	包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固の新規診断法の確立	30～32
若手研究	第三内科学	医員	佐藤 慎哉	肝臓に対する Sulforaphane の抗腫瘍効果の検討	30～32
若手研究	第三内科学	医員	賀屋 大介	NASH に対する胆汁酸受容体 TGR5 の活性化と既存薬剤を応用した新規治療法の開発	30～32
若手研究	循環器内科学	医員	中田 康紀	慢性腎臓病における PIGF と sFlt-1 の発現不均衡に関する機序の解明	30～31
若手研究	循環器内科学	医員	中川 仁	心臓局所のネプリライシンが ANP 系のパラクライン作用を減弱する機序の解明	30～32
若手研究	総合医療学	医員	田井 義彬	脈波自由行動下血圧計による冬季入浴中の血圧の実態調査	30～33
若手研究	腎臓内科学	助教	江里口雅裕	糖尿病におけるマクロファージによる尿細管障害とアルブミン再吸収障害の機序の解明	30～32
若手研究	腎臓内科学	助教	鮫島 謙一	糖尿病性腎症での腎組織内小血管病変と大血管病である心血管イベントとの関連の検討	30～32
若手研究	腎臓内科学	博士研究員	松井 勝	新規抗動脈硬化因子可溶性 Flt-1 による腎硬化症の発症機序解明と臨床的展開	30～33
若手研究	皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究	30～31
若手研究	中央内視鏡部	助教	井上 隆	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における遊離腫瘍細胞と局所再発に関する研究	30～31
若手研究	中央手術部	助教	新城 武明	疼痛鈍麻の表現型を示す遺伝子改変マウスの包括的遺伝子解析から新たな疼痛因子を探る	30～31
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	PD-1 遺伝子破壊 EGFRVIII 特異的 CAR-T 細胞による胚芽腫治療法の開発	30～31
若手研究	人工関節・骨軟骨再生医学講座	講師	稲垣 有佐	間葉系幹細胞の酸素濃度変化に着目した変形性膝関節症の病態解明	30～31
若手研究	分子病理学	助教	岸 真五	ミトコンドリア NEET の標的化による骨肉腫治療の研究	30～31
若手研究	整形外科	助教	清水 隆昌	間葉系幹細胞シートと組織移植を融合させたハイブリッド型自家神経作成の試み	30～33
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	阪上 雅治	高度前庭障害に対する多能性幹細胞を用いた細胞移植治療の開発	30～31
若手研究	口腔外科学	学内講師	堀田 聡	即時荷重インプラントオーバーデンチャーにおける微小動揺の予測とプロトコルの確立	30～32
若手研究	口腔外科学	助教	仲川 洋介	核-細胞間輸送に関与する受容体を標的とした口腔がん治療の基礎研究	30～32
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	新規収縮物質 Up4A を介する炎症時における一過性血管収縮へのアルコールの影響	30～33
若手研究	糖尿病学講座	医員	西岡 祐一	全診療報酬情報を用いた糖尿病診療の時空間疫学分析	30～33
若手研究	看護学科 小児看護学	講師	小代 仁美	小児がんの子ども入院経過における家族機能と家族支援	30～32
若手研究	看護学科 母性看護学	講師	上田 佳世	医療の質指標 (QI) を用いた低リスク出産の医療改善プログラムの検証	30～33
若手研究	分子病理学	博士研究員	川原 勲	中鎖脂肪酸の心筋機能改善作用と臨床応用の検討	30～31
研究活動スタート支援	未来基礎医学	特任講師	森 英一郎	中間径フィラメント・LC ドメインの構造解明	29～30
研究活動スタート支援	第一解剖学	研究助教	遠藤のぞみ	新規行動解析システムによる母子分離の集団内行動様式への影響と関連脳領域の検討	29～30
特別研究員奨励費	循環器内科学	(特別研究員)	熊澤 拓也	心不全における細胞老化誘導機構の解明と老化細胞を標的とした新規治療法の開発	30～32

リサーチ・クラークシップ体験記



医学科3年 三好 真緒
University of Michigan
Medical School

アメリカの文化や雰囲気を体感することができ、医療研究現場においてもセミナー時に毎回質疑応答が時間一杯になるまで続けられており、聞き手が積極的に話し手のプレゼンを聞いていることが伝わってきました。最初はついていくことに苦労しましたが、日々の研究を通して医学への向き合い方を理解することができました。英語を話せることの重要性を再認識しましたし、海外に行ったからこそ学べたこと、経験できたことがたくさんありました。私はこのリサーチクラークシップを通して、基礎研究の楽しさを感じ、興味を持つようになりました。本当に貴重な経験をさせて頂いたと思います。今回の留学を助成して下さった『未来への飛躍基金』には感謝してもしきれません。今回の留学で得た研究に対する姿勢、海外への興味をこれからも維持して、将来に繋がたいと思います。



医学科3年 相馬 有輝
Cincinnati Children's
Hospital Medical center

私は、アメリカに研究室配属で2か月半留学させていただきました。日本語を理解してくれる人がほとんどいない、中国、インド、イタリアなど様々な訛りの英語に包まれながら研究を学びました。自分自身、研究はほぼ素人で異国の地で右も左も分かりませんでした。暖かく、時に厳しく教えていただきました。その結果、研究に興味を持つきっかけになり、帰国後も続けています。研究も学べますが、私は、アメリカで様々な人に出会えたことにも大きな魅力を感じました。現地で働く日本人の医師や薬剤師の方とお話することは大きな刺激になり、将来医師になる身として帰国後の過ごし方が大きく変わりました。ホステルで料理をしながらインド人や中国人と喋ると、それぞれの国の医療事情がリアルに感じられました。研究室配属は人生できっとかけがえのないものになるので、ぜひ皆さんに行ってもらいたいと思います。最後に、この貴重な経験を与えてくださった大学と寄付して下さった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成30年6月までに累計1,854件のご寄附をいただいております。なお、今号では、平成30年4月～6月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成30年3月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆100万円以上1,000万円未満

岡本 新悟 様

◆30万円以上100万円未満

梅田 智広 様 菊川 政次 様 新名 直樹 様
竹田 幸祐 様 鶴屋 和彦 様 中垣 滋央 様
中谷 勝紀 様 中原 祥文 様 林 博文 様
細井 裕司 様 松本 雅則 様 宮田 重樹 様
吉治 仁志 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆10万円以上30万円未満

形岡 博史 様 木下 國浩 様 佐々木 隆 様
鮫島 謙一 様 末吉 智 様 田中 末子 様
田邊 香 様 寺本 正治 様 仲川 孝彦 様
中川 徹 様 野見 武男 様 牧之段 学 様
松本 昌美 様 吉井 純一 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円未満

黒田 一成 様 重松 英樹 様 田遠和佐子 様
長谷川 新 様 増田 佳亮 様 松田 隆 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

浅田 潔 様 葛本 幸康 様 佐々木 司 様
佐野 仁美 様 高橋健一郎 様 松尾 千秋 様

【法人・企業】

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人
(五十音順)

大学院入試日程

平成30年度 秋入学

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	若干名	平成30年7月17日（火）	平成30年8月6日（月）	平成30年9月11日（火）
生体情報・病態制御医学専攻				
生体分子・機能再建医学専攻				

●社会人*の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。

平成31年度

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	第一次募集 平成30年10月15日（月）～10月19日（金）	第一次募集 平成30年11月5日（月）	第一次募集 平成30年12月11日（火）
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集	第二次募集	第二次募集
生体分子・機能再建医学専攻	20	平成31年1月7日（月）～1月11日（金）	平成31年1月28日（月）	平成31年3月5日（火）

●社会人*の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。●平成31年度秋入学の実施については未定です。●大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集 平成30年10月9日（火）～10月12日（金） 第二次募集 平成31年1月15日（火）～1月18日（金）	第一次募集 平成30年11月5日（月） 第二次募集 平成30年1月28日（月）	第一次募集 平成30年12月11日（火） 第二次募集 平成31年3月5日（火）

●社会人*の入学も可能です。但し、平成31年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	コース	専門	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学	看護学コース	【領域】健康科学 基礎看護学 成人看護学 高齢者看護学 小児看護学	5	第一次募集 平成30年7月23日（月） ～7月26日（木） 第二次募集 平成30年10月22日（月） ～10月25日（木）	第一次募集 平成30年 8月24日（金） 第二次募集 平成30年 12月3日（月）	第一次募集 平成30年 9月4日（火） 第二次募集 平成30年 12月11日（火）
		高度実践コース 高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野） 周麻酔期看護師教育課程				
	助産学実践コース	【領域】女性健康・助産学	5			

●社会人*の入学も可能です。ただし、平成31年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●社会人には、長期履修制度を設けています。
●本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
●高度実践コース（クリティカルケア看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とする。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

【問合せ先】 教育支援課／医学研究科担当：内線 2716 看護学研究科担当：内線 2390

公開講座情報

特別支援学校と病院を結ぶ！

奈良県立医科大学附属病院アート展

開催日：平成30年8月27日（月）12:30開会式～9月1日（土）
[毎日9時～19時] ※初日は13時開幕、最終日は17時閉幕
場 所：奈良県立医科大学附属病院 BC棟 2階廊下
概 要：特別支援学校生徒のアート作品を病院廊下に展示します。
備 考：無料

がん治療とお口のケア

～口腔ケアはあなたの命を守ります！～

開催日：平成30年9月9日（日）14:00～16:00
場 所：奈良県文化会館 小ホール
概 要：がん治療とお口のケアについて、わかりやすくお話しします。
講演者：口腔外科学 桐田忠昭 教授
対 象：県民 備 考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：奈良県歯科医師会 0742-33-0861

医療・就労・アートをつなぐフォーラム

開催日：平成30年9月1日（土）14:00～16:15
場 所：奈良県立医科大学 大講堂
概 要：〈テーマ〉医療現場で活躍する特別支援学校生徒等
パネルディスカッション等開催
対 象：県民
定 員：600名
備 考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学障害者雇用推進係
0744-22-3051（内線2140）

平成30年度前期 奈良県立医科大学

公開講座「くらしと医学」

開催日：平成30年9月22日（土）13:30～15:30
場 所：橿原文化会館 大ホール
概 要：腰痛をテーマに基調講演とディスカッションを行う。
講演者：麻酔科学ペインセンター 渡邊恵介 副センター長 他
対 象：県民 定 員：1,300名
備 考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学 県民健康増進支援センター
0744-22-3051（内線2297）

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
4月1日	県民だより4月号	—	ヘリポート竣工式について
4月3日	朝日放送「名医とつながる！ たけしの家庭の医学」	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 糺	めまいについて
4月18日	奈良新聞 奈良テレビ「ゆうドキッ！」	理事長・学長 細井 裕司	MBT 構想についてコメント
4月22日	読売新聞	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 糺	「病院の実力」コーナーにおいて、 難聴についてコメント
2018年 4月27日	NHK「ニュースほっと関西」	老年看護学 教授 澤見 一枝	ダンスで脳トレについて
5月1日	県民だより5月号	障害者雇用推進係 係長 岡山 弘美	障害者雇用についてコメント
5月16日	奈良新聞	内科学第三 講師 赤羽たけみ	「肝炎検査と肝がんの予防」に ついてコメント
5月23日	関西テレビ 「ザドキュメント」	脳神経外科 病院教授 朴 永銖	揺さぶられっ子症候群に関して インタビュー等
5月26日	関西テレビ 「ザドキュメント」	脳神経外科 病院教授 朴 永銖	揺さぶられっ子症候群に関して インタビュー等
6月3日	読売新聞	—	モンゴルの医師等の臨床研修 センター視察について

編集後記

皆様からのご協力をいただき第65号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

本文中でも紹介しておりますがミシガン大学医学部最高責任者一行が本学を訪問されました。先生方の貴重な講演を拝聴し、大変勉強になりました。今後も奈良医大とミシガン大学の交流を深めていきたいと存じます。

